

千葉県福祉サービス第三者評価の評価結果

1 評価機関

名 称	株式会社 学研R&C
所 在 地	東京都大田区仲池上1-17-15学研第2ビル
評価実施期間	平成19年10月1日～平成20年1月31日

2 評価対象事業者

名 称	浦安市立東野保育園	種別： 保育所
代表者氏名	河野 泰久	定員（利用者人数）： 150 名
所 在 地	千葉県浦安市東野1-7-2	TEL 047-350-4321

3 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◆ 特に評価の高い点

子育て支援総合計画として浦安市が策定している中には、保育園の整備、一時保育の拡充、乳幼児健康支援などがあり、5年以内の実現目標が定められています。これに拠って課題抽出などを行い、年度ごとの計画に反映しています。

環境・避難・防犯・ステップアップ（保育技術など）・子育て支援というように、係を決めて具体的な方法や改善に向けて取り組んでいます。幹部職員の指導力によってこのような取組を行っています。

また、子育て支援事業として電話相談や園庭開放、ホール開放、行事開放（焼いも会・クラス体験・運動会）などを行っています。ホールでは人形劇を行うこともあります。さらに、当園では一時保育も行っていて、地域の、子育て中の親子を支援しています。

園では、会食会、出前おにぎり作り、お弁当給食、クッキング保育など食事を楽しむためのさまざまな工夫をしています。給食員は子どもとなるべく触れ合いを多くもつよう努めています。栄養士は5歳児に食育の絵本の読み聞かせをしています。給食の量は子どもの状況で加減したり、年長児は自分で量を決めるようにしています。

数年前から環境づくりについて、定期的に話し合い、子ども一人ひとりが満足できる遊びや玩具の配置、片付けに関して検討を進めています。各保育室は、コーナー分けをしており、年齢に応じた遊具が用意され、片付けやすいよう工夫しています。園では、今後園庭の環境づくりについても、さらなる取組を進めていく予定です。

週に1回、3、4、5歳児を中心に異年齢交流の日を設けています。グループを作り、散歩や園庭遊び、食事をいっしょにしています。また、3、4、5歳児が1、2歳児の午睡や着替えを手伝ったりしています。

一時保育のための保育室もあり、専属の担当者がいます。一時保育室は、食事・遊び・午睡の空間分けをしています。乳児・幼児にふさわしい遊具を用意しています。一時保育の子どもと通常保育の子どもはお互いに行き来をしていっしょに遊んでいます。

◆ 特に改善を求められる点

連絡ノートによる伝達、担任や園長への申し出、「ご意見ボックス」への投函、「市長への手紙」など、苦情や意見を受け付けるいろいろなしくみから、自由に選べるようになっていますが、今後、苦情解決のしくみをわかりやすく説明した文書を作成して配布したり、園内の目立つところに掲示したりするよう望みます。

0歳児、時間外、栄養士、保健などのマニュアルはありますが、その理解・活用については、職員によって差があると園長は感じています。職員の基本マナーなどについても「環境係」が担当し、検討課題として取り組んでいます。

なお今後、サービスの標準化を図るため、マニュアル類の整備とサービスの実施方法について研修や個別の指導を行うよう望みます。

また、プライバシー保護に関しては職員会議などで園長から注意は促していますが、職員の認識には差が見られます。今後は非常勤の職員なども含めてプライバシーの保護の考え方の徹底を職員の間で図ることを望みます。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント（受審事業者の意見）

第三者評価を始めて受けさせて頂き、評価項目に沿って一つひとつ自分たちの保育園はどうか、クラスなどで話し合いをしたり、クラス代表者の会議を持つことにより点検をすることができました。その中で今迄気が付かなかった点や問題点に気付くことができた保育内容や環境を見直し確認が出来ました。

今後は、この評価結果を受け止めて一人ひとりの保育内容に対する気付く力を大切に、創意工夫を心がけながら保育の充実をいかに起こさしめるか、又、地域の実態や保護者の意向に配慮しつつより良い保育に向けて職員全員で取り組んでいきたいと思っています。

5 事業者の特徴（受審事業者の意見）

本園は、通常保育の外に「一時保育事業」の実施や地域子育て支援事業である園庭開放などに力を注いでいます。又、食育についても特に力を注ぎその結果、高い評価を頂きましたことは、私たち職員の励みです。

本園は、本市のほぼ中央に位置する保育園として、こどもたち一人ひとりの気持ちをしっかり受け止め、大人との信頼関係を結び、そこから友達とのつながりを広め豊かな経験をたくさんできるようにしていきたいと思っています。お子さんを安心して預けられる園づくりを目指し、子どもたちが「楽しかった！また、行きたいなあ！」という気持ちで帰れるよう保育士はじめ、各種の職員が連携を取り合い協力体制をとって日々の保育にあたっていきたいと思っています。

千葉県福祉サービス第三者評価の評価結果

6 分野別特記事項

大項目	分野別特記事項（特に優れている点・特に改善を求められる点）
I 福祉サービスの基本方針と組織	<p>環境・避難・防犯・ステップアップ（保育技術など）・子育て支援というように、係を決めて具体的な方法や改善に向けて取り組んでいます。</p> <p>子どもたちの健やかな成長を目ざすことや子育て支援、子どもと家庭の見守りという言葉が理念の中にあり、職員は一丸となって取り組んでいます。</p> <p>さらに、職員の保育技術の向上を目的としたステップアップ勉強会では、対人能力向上や子どもへの言葉かけなど、テーマを決めて取り組んでいます。</p>
II 組織の運営管理	<p>職員を係ごとに分け、検討会議を行うことで、職員が発言しやすい場を作っています。</p> <p>このほか、職員会議などで出された意見は幹部職員が必ず把握するしくみになっています。</p> <p>子育て支援事業として電話相談や園庭開放、ホール開放、行事開放（焼いも会・クラス体験・運動会）などを積極的に行っています。</p> <p>また、当園では一時保育も行っていて、地域の、子育て中の親子を支援しています。</p>
III 適切な福祉サービスの実施	<p>年1回、市の「事業者自己評価」を受審しています。市からフィードバックされた評価結果は職員会議で報告し周知を図っていますが、分析・検討はまだ不十分であると感じています。また、副園長が責任者となって「職員アンケート」も実施しています。このアンケートに寄せられたさまざまな意見・提案の中から各職員がそれぞれ2つ選択し、全体集計します。それらをさらに個人的なテーマと集団的テーマに分け、それぞれのテーマの中で一番多かった意見をみんなの課題として、その改善に取り組んでいます。</p>

大項目	分野別特記事項（特に優れている点・特に改善を求められる点）
IV サービスの内容	<p>園では、会食会、出前おにぎり作り、お弁当給食、クッキング保育など食事を楽しむためのさまざまな工夫をしています。給食員や栄養士は、子どもとなるべく触れ合いを多くもつよう努めています。</p> <p>一時保育室は、食事・遊び・午睡の空間分けがされ、乳児・幼児にふさわしい遊具を用意しています。一時保育の子どもと通常保育の子どもはお互いに行き来をしていっしょに遊んでいます。一時保育の実施にあたっては不安を取り除いて、心地よくまた楽しく生活できるよう配慮しています。</p> <p>園では、一人ひとりの気持ちを受け止め、愛情豊かにかかわることを基本姿勢とし、子どもの話を聞くという姿勢で保育にあたっています。勉強会で言葉かけなどについて話し合い、自分の保育の振り返りをしています。</p>

福祉サービス第三者評価共通項目（施設系）の評価結果					評価結果
大項目	中項目	小項目	項目		
Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織	1 理念・基本方針	(1) 理念・基本方針の確立	1	①理念が明文化されている。	a
			2	②理念に基づく基本方針が明文化されている。	a
		(2) 理念・基本方針の周知	3	①理念や基本方針が職員に周知・理解されている。	a
			4	②理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a
	2 計画の策定	(1) 中・長期的なビジョンの明確化	5	①中・長期計画を踏まえた事業計画が作成されている。	a
		(2) 重要課題の明確化	6	①事業計画達成のための重要課題が明確化されている。	a
		(3) 計画の適正な策定	7	①施設の事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが合議する仕組みがある。	a
	3 管理者の責任とリーダーシップ	(1) 管理者のリーダーシップ	8	①質の向上に意欲を持ち、その取り組みに指導力を発揮している。	b
			9	②経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	a
Ⅱ 組織の運営管理	1 経営状況の把握	(1) 経営環境の変化等への対応	10	①事業経営を取り巻く環境が的確に把握されている。	a
			11	②経営状況を分析して、改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a
	3 人材の確保・養成	(1) 人事管理体制の整備	12	①施設的全職員が守るべき倫理を明文化している。	a
			13	②人事方針を策定し、人事を計画的・組織的に行っている。	a
			14	③職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	a
			15	①事業所の就業関係の改善課題について、スタッフ（委託業者を含む）などの現場の意見を幹部職員が把握できる仕組みがある。	a
		(2) 職員の就業への配慮	16	②福利厚生に積極的に取り組んでいる。	a
			17	①職員の教育・研修に関する基本方針が明示されている。	a
		(3) 職員の質の向上への体制整備	18	②定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a
			19	③実習生の育成について、積極的な取り組みを行っている	a
	4 安全管理	(1) 利用者の安全確保	20	①緊急時（事故、災害、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a
			21	②利用者の安全確保のためにリスクを把握し、対策を実行している。	a
	5 地域との交流と連携	(1) 地域との適切な関係	22	①地域との交流・連携を図っている。	a
			23	②利用者ニーズに応じて、施設外にある社会資源を活用している。	a
			24	③事業所が有する機能を地域に還元している。	a
			25	④関係機関等との連携が適切に行なわれている。	a
			26	①地域の福祉ニーズを把握している。	a
		(2) 地域福祉の向上	27	②地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a
	Ⅲ 適切な福祉サービスの実施	1 利用者本位の福祉サービス	28	①施設的全職員を対象としたプライバシーの保護に関する研修を行なっている	a
			29	②プライバシーの保護の考え方の徹底を職員の間で行っている。	b
			30	①利用者満足の向上を意図した仕組みを整備している。	b
			31	②利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている	a
			32	①苦情又は意見を受け付ける仕組みがある	a
			33	②寄せられた意見、要望やトラブルに対応するシステムがある。	a
		2 サービスの質の確保	34	③利用者からの意見等に対して迅速に対応している	b
			35	①サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a
			36	②課題発見のための組織的な取り組みをしている。	b
			37	③常に改善すべき課題に取り組んでいる。	a
			38	①職員の対応について、マニュアル等を作成している。	b
			39	②日常のサービス改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	b
		(3) 実施サービスの記録	40	①利用者の日常の体調の変化を把握して、それを記録している。	a
			41	②利用者の状態変化などサービス提供に必要な情報が、口頭や記録を通して職員間に伝達される仕組みがある。	a
	3 サービスの開始・継続	(1) サービス提供の適切な開始	42	①施設利用に関する問合せや見学に対応している。	a
			43	②サービスの開始に当たり、利用者等に説明し、同意を得ている。	a
	4 サービス実施計画の策定	(1) 利用者へのアセスメント	44	①利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	a
		(2) 個別支援計画の策定	45	①一人一人のニーズを把握して個別の支援計画を策定している。	a
			46	②個別支援計画の内容が常に適切であるかの評価・見直しを実施している。	a
		(3) 情報の管理	47	③個人情報保護に関する規定を公表している。	b

福祉サービス第三者評価項目（保育所）の評価結果					評価結果
大項目	中項目	小項目		項目	
IV 保育所	1 子どもの発達援助	(1)	発達援助の基本	1 保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	a
				2 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	a
		(2)	健康管理・食事	3 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	a
				4 健康診断（内科、歯科）の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	a
				5 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している。	a
				6 食事を楽しむことができる工夫をしている。	a
				7 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a
				8 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	a
				9 アレルギー疾患を持つ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	a
		(3)	保育環境	10 子どもが心地よく過ごすことができる環境を整備している。	a
				11 生活の場に相応しい環境とする取組みを行っている。	a
		(4)	保育内容	12 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	a
				13 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	a
				14 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	a
				15 身近な自然や社会と関われるような取組みがなされている。	a
				16 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	a
				17 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	a
				18 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	a
				19 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	a
				20 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	a
				21 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	a
	2 子育て支援	(1)	入所児童の保護者の育児支援	22 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	a
				23 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	a
				24 こどもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	a
				25 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている。	a
				26 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	a
		(2)	一時保育	27 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	a

項目別評価結果・評価コメント

事業者名 浦安市立東野保育園

評価基準		項目番号	評点	コメント
I 福祉サービスの基本方針と組織	項目番号			
I－1 理念・基本方針				
I－1－（１） 理念、基本方針が確立されている。				
I－1－（１）－① 理念が明文化されている。		1	a	浦安市の公立保育園として共通の理念があり、保育園として目ざす方向と使命を明文化しています。これは玄関や各保育室にも掲示しています。
I－1－（１）－② 理念に基づく基本方針が明文化されている。		2	a	理念をもとにした基本方針や園目標が立てられ、明文化しています。
I－1－（２） 理念、基本方針が周知されている。				
I－1－（２）－① 理念や基本方針が職員に周知されている。		3	a	浦安市の公立保育園としての共通の理念や方針については説明しています。園長としては、職員が理解を深めるための取組がもっとあってもよいと感じているようですので、今後の具体的な取組を期待します。
I－1－（２）－② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。		4	a	入園の際の面接で資料を渡し、理念や基本方針にしたがって、園として目ざすことなどを説明しています。保育内容にかかわることは、副園長や主任が主に説明をしています。
I－2 計画の策定				
I－2－（１） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。				
I－2－（１）－① 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。		5	a	中・長期計画については、子育て支援総合計画として浦安市が策定しています。この中には、保育園の整備、一時保育の拡充、乳幼児健康支援などがあり、５年以内の実現目標が定められています。これに拠って公立の各保育園は課題抽出などを行い、年度ごとの計画に反映しています。
I－2－（２） 重要課題の明確化				
I－2－（２）－① 事業計画達成のための重要課題が明確化されている。		6	a	事業や保育の目標を着実に行うための予算立案については前年度に行い、予算要求に反映させる必要があります。大規模修繕については市としての計画がありますが、小型修繕や備品については園としての課題を抽出し、計画的に進めています。
I－2－（３） 計画が適切に策定されている。				
I－3－（１）－① 施設の事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが合議する仕組みがある。		7	a	予算立案など重要な内容については各クラスごとに意見を出し合い、最終的には園長、副園長が取りまとめるようになっています。 職員会議は係ごとの会議も行っているため、職員と幹部職員が合議し、決定するしくみになっています。

評価基準		評点	コメント
I-3 管理者の責任とリーダーシップ			
I-3-(1) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
I-3-(1)-① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	8	b	保育の内容面については副園長や主任が中心となり対応を行っているため、園長はあまり関与できていないと感じています。幹部職員はそれぞれの立場で指導を行っていますが、さらに関係性を深める工夫をするとよいでしょう。
I-3-(1)-② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	9	a	環境・避難・防犯・ステップアップ（保育技術など）・子育て支援というように、係を決めて具体的な方法や改善に向けて取り組んでいます。幹部職員の指導力によってこのような取組を行っています。
II 組織の運営管理			
II-1 経営状況の把握			
II-1-(1) 経営環境の変化等への対応			
II-1-(1)-① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	10	a	一時保育を実施する中で保護者の意向やニーズを直接収集しています。 また、園庭・ホール開放なども行っています。ここでアンケートを行い、地域において当園がどのようにかわりを持つべきか把握するように努めています。
II-1-(1)-② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	11	a	一時保育、園庭開放、ホール開放などを行い、理念のひとつである子育て支援に取り組んでいます。この事業を推進するためにも職員配置については配慮をしています。 このほか、計画推進のための改善すべき課題については抽出を行うよう心がけています。
II-2 人材の確保・養成			
II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。			
II-3-(1)-①施設の全職員が守るべき倫理を明文化している	12	a	職員は、公務員、保育士の倫理綱領を理解し遵守しています。倫理綱領は事務所に掲示することによって、全職員に周知しています。
II-2-(1)-②人事方針を策定し、これに基づく職員採用、人材育成を計画的・組織的に行っている。	13	a	人事については市の方針に基づいて行っています。園長や副園長が職員と個人面談を行い、育成を行っています。 非常勤職員については、市で定めた規定に基づき、子どもに対する姿勢や自分の目的についてなどを確認し、園で採用を行っています。
II-2-(1)-③職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	14	a	人事評価については組織的に行うしくみがあります。自己評価を行っていますので、評価基準を明確にすることによってフィードバックもさらに具体的なものになるでしょう。

評価基準		評点	コメント
Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。			
Ⅱ－２－（２）－①事業所の改善課題について、スタッフ（委託業者を含む）などの現場の意見を幹部職員が把握できる仕組みがある。	15	a	職員を係ごとに分け、検討会議を行うことで、職員が発言しやすい場を作っています。 このほか、職員会議などで出された意見は幹部職員が必ず把握するしくみになっています。
Ⅱ－２－（２）－②福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	16	a	市の職員としての福利厚生制度があります。 また、園においても独自のレクリエーションを行い、職員のリフレッシュを図っています。
Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上への体制整備			
Ⅱ－２－（３）－① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	17	a	職員の保育技術の向上を目的としてステップアップ勉強会を行っています。対人能力向上や子どもへの言葉かけなど、テーマを決めて取り組んでいます。 また、研修は年間計画に基づいて行っています。
Ⅱ－２－（３）－② 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	18	a	研修受講後は、報告書にまとめることを義務付け、職員会議において報告を行っています。このことによって研修の評価や計画の見直しも行っています。
Ⅱ－２－（３）－③ 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	19	a	実習オリエンテーション資料として、職員とのかかわり方、子どもとの接し方、記録の取り方、入室についての注意事項、衛生面の注意事項などをまとめています。実習のプログラムについては学校との連携により柔軟に対応しています。 なお今後、実習生受け入れの際は、実習生の守秘義務に関する誓約書の提出を要請してください。
Ⅱ－３ 安全管理			
Ⅱ－３－（１） 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。			
Ⅱ－３－（１）－① 緊急時（事故、災害、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	20	a	マニュアルは整備しており、事務室の書棚に保管するとともに職員にも配布しています。差し替えについては、年度末に行っています。新人の職員については、主任が保持状況などを確認しています。
Ⅱ－３－（１）－② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	21	a	危険なことがないかどうかについては、チェックリストがあり、朝と夕方の担当者がクラス別にチェックを行っています。事前の安全確認をすることによって、怪我を防止するよう努力しています。

評価基準		評点	コメント
Ⅱ－４ 地域との交流と連携			
Ⅱ－４－（１） 地域との関係が適切に確保されている。			
Ⅱ－４－（１）－①地域との交流・連携を図っている。	22	a	子育て支援事業として電話相談や園庭開放、ホール開放、行事開放（焼いも会・クラス体験・運動会）などを行っています。ホールでは人形劇を行うことがあります。また、当園では一時保育も行っていて、地域の、子育て中の親子を支援しています。
Ⅱ－４－（１）－②利用者ニーズに応じて、施設外にある社会資源を活用することを支援している。	23	a	散歩で公園に行ったり、博物館や交通公園、消防署の見学などにも行ったりしています。玄関には病後児保育や休日保育の案内資料を置いています。
Ⅱ－４－（１）－③事業所が有する機能を地域に還元している。	24	a	公民館で行っている子育てサークルへの出前講座として育児相談などを行っています。また、電話相談については、主に副園長や看護師が対応しています。ファミリーサポート事業として、総合福祉センターでは指あそびや手あそびを保育士が行っています。
Ⅱ－４－（１）－④関係機関との連携を図っている。	25	a	児童相談所との連携はもとより、教育委員会やこども家庭支援センターなどとの連携は定期的に行っています。
Ⅱ－４－（２） 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。			
Ⅱ－４－（２）－① 地域の福祉ニーズを把握している。	26	a	子育て支援（電話相談、園庭開放、ホール開放、行事開放）および一時保育の中でアンケートを行いニーズの把握に努めています。これらの取組によって保護者の意向やニーズが直接収集できます。
Ⅱ－４－（２）－② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	27	a	保育園としての専門性を生かした子育て支援事業を行っています。特に一時保育の需要は多くあります。

項目別評価結果・評価コメント

事業者名 浦安市立東野保育園

評価基準		項目番号	評点	コメント
Ⅲ 適切な福祉サービスの実施				
Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス				
Ⅲ－１－（１） 利用者を尊重する姿勢が明示されている。				
Ⅲ－１－（１）－①施設の全職員を対象としたプライバシーの保護に関する研修を行なっている	28	a		平成17年に、市立7園共同で講師を呼び、職員を対象とした個人情報保護・プライバシー保護に関する研修を行っています。保護者にも、「園だより」に明示して配布しています。職員会議や月1回のサポーターとの打ち合わせの中で機会あるごとに説明し、職員への周知を図っています。また、保護者には、個人情報を使用する場合の園の対応を説明し、不都合がある場合は申し出てくれるように伝えています。
Ⅲ－１－（１）－② プライバシーの保護の考え方の徹底を職員の間で図っている。	29	b		プライバシー保護に関しては職員会議などで園長から注意は促していますが、職員の認識には差が見られます。今後は非常勤の職員（サポーター）なども含めてプライバシーの保護の考え方の徹底を職員の間で図ることを望みます。 なお、重要な書類は、鍵のかかる書棚に保管し、鍵は園長が管理しています。
Ⅲ－１－（２） 利用者満足の上上に務めている。				
Ⅲ－１－（２）－① 利用者満足の上上を意図した仕組みを整備している。	30	b		年間の各種行事や保育参観・保育参加の折に、利用者満足把握する目的でアンケートを行っています。また、懇談会の議題として取り上げたり、個人面接の際に聞き取り調査をしたり、連絡ノートから読み取ったりしています。 玄関ホールにはご意見ボックスも設置しています。 なお今後、利用者満足の上上を目指す姿勢を明示した文書の作成や利用者満足把握するための利用者会の設置を勧めます。
Ⅲ－１－（２）－② 利用者満足の上上に向けた取り組みを行っている。	31	a		利用者から把握した結果をクラスごとに分析・検討し、主任や副園長に相談・報告をしています。検討した結果に基づいて、利用者満足の上上に向けてできることから取り組み、実施した内容は職員会議で確認しています。
Ⅲ－１－（３） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。				
Ⅲ－１－（３）－① 苦情又は意見を受け付ける仕組みがある。	32	a		連絡ノートによる伝達、担任や園長への申し出、「ご意見ボックス」への投函、「市長への手紙」など、苦情や意見を受け付けるいろいろなしくみから、自由に選べるようになっています。 相談室は、園が手狭なため用意できないので事務室を代用していますが、気兼ねしないで相談できるスペースの確保を配慮したいものです。また、苦情解決のしくみをわかりやすく説明した文書を作成して配布したり、園内の目立つところに掲示したりするよう望みます。
Ⅲ－１－（３）－② 寄せられた意見、要望やトラブルに対応するシステムがある。	33	a		苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員などを設置しています。「市長への手紙」として電子メールで寄せられた意見、要望なども園にフィードバックされ、園長が回答を作成して市の担当課の了解を得た後、利用者に回答しています。寄せられた意見、要望への回答は迅速に行っています。処理した内容については、園長が職員会議で伝えています。 なお、苦情を申し出た利用者・家族に配慮した上で、苦情内容や解決結果などを公表するよう希望します。
Ⅲ－１－（３）－③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	34	b		寄せられた意見、要望やトラブルに対しては、速やかに回答していますが、苦情処理簿などによる記録はありません。苦情や意見の内容は職員会議で全員で検討し保育サービスの改善に役立てています。「電話相談」専用回線もあり、いつでも苦情や意見を受け付けています。こちらは記録もとっています。 なお今後、意見や提案を受けた際の記録方法、報告の手順や対応策の検討などについて規定したマニュアルの整備や、それらの定期的な見直しを行うよう望みます。

評価基準		評点	コメント
Ⅲ－２ サービスの質の確保			
Ⅲ－２－（１） 質の向上に向けた組織的な取り組みが組織的に行われている。			
Ⅲ－２－（１）－① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	35	a	<p>年1回、市の「事業者自己評価」を受審しています。市からフィードバックされた評価結果は職員会議で報告し周知を図っていますが、分析・検討はまだ不十分であると園長は感じています。また、副園長が責任者となって「職員アンケート」も実施しています。このアンケートに寄せられたさまざまな意見・提案の中から各職員がそれぞれ2つ選択し、全体集計します。それらをさらに個人的なテーマと集団的テーマに分け、それぞれのテーマの中で一番多かった意見をみんなの課題として、その改善に取り組んでいます。</p>
Ⅲ－２－（１）－② 課題発見のための組織的な取り組みをしている。	36	b	<p>市からフィードバックされた「事業者自己評価結果」は職員会議で話し合い、その内容は職員会議録に記録しています。サポーターには、休憩室に掲示して、各自よく読んでおきましょう伝えています。しかし、話し合いはまだ不十分であり、評価結果の分析や課題の抽出、文書化などは行っていないです。</p> <p>今後、課題発見のための、園挙げての取組を期待します。</p>
Ⅲ－２－（１）－③ 常に改善すべき課題に取り組んでいる。	37	a	<p>事業者自己評価結果に基づき、各クラス、各個人がどう対処すべきかを話し合っています。また、「ステップアップ勉強会」や「環境係」などの部会があり、現在、職員は課題発見とその改善策の策定に取り組もうと努力しています。</p>
Ⅲ－２－（２） 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。			
Ⅲ－２－（２）－① 職員の対応について、マニュアル等を作成している。	38	b	<p>0歳児、時間外、栄養士、保健などのマニュアルはありますが、その理解・活用については、職員によって差があると園長は感じています。職員の基本マナーなどについても「環境係」が担当し、検討課題として取り組んでいます。</p> <p>なお今後、サービスの標準化を図るため、マニュアル類の整備とサービスの実施方法について研修や個別の指導を行うよう望みます。</p>
Ⅲ－２－（２）－② 日常のサービス改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	39	b	<p>マニュアルの見直しについては、職員会議で意見が出たときなど、必要に応じて行っています。</p> <p>しかし、見直しの時期やその方法などのしくみが定められていないこと、サービスの改善・工夫に向けた委員会の設置などがないことから、早い時期に、これらの整備を望みます。</p>
Ⅲ－２－（３） サービス実施の記録が適切に行われている。			
Ⅲ－２－（３）－① 利用者の日常の体調の変化を把握して、それを記録している。	40	a	<p>園児一人ひとりの日常の体調の変化は発達記録に記録しています。また、体調変化の状態に応じて保護者にも連絡しています。発達記録票は、市立保育園共通の様式のものを使って、記録する職員によって記録の内容にばらつきが生じないように配慮しています。</p>
Ⅲ－２－（３）－② 利用者の状態変化などサービス提供に必要な情報が、口頭や記録を通して職員間に伝達される仕組みがある。	41	a	<p>「クラス状況」に利用者の状態変化を記録しています。これを全員または年齢クラス別に配布し、職員会議で担任が説明します。さらに会議録にファイルしています。「連絡ノート」や「発達記録」にも記録して、職員は必ず目を通してしています。発熱など主に体調変化に関する記録は、看護師が「家庭連絡簿」に記入し、事務所に保管していつでもチェックできるようにしています。</p>

評価基準		評点	コメント
Ⅲ－３ サービスの開始・継続			
Ⅲ－３－（１） サービス提供の開始が適切に行われている。			
Ⅲ－３－（１）－① 施設利用に関する問合せや見学に対応している。	42	a	<p>見学希望者には、希望の日時を聞き対応しています。園庭開放などの折、子育て支援の一環としてクラス体験も実施していますし、電話相談にも応じています。さらに、一時保育も行っています。園を紹介した資料「東野保育園概要」は行政など限られた人に、「子育て支援チラシ」は総合福祉センターに、「入園のしおり」は市役所と市立各保育園に置いて配布しています。</p> <p>こうした資料は、さらに広げてさまざまな公共施設に置き、多くの人が手にすることができるよう配慮を望みます。</p>
Ⅲ－３－（１）－② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	43	a	<p>保育内容や料金などの重要事項の説明は、市の担当課が行っています。内定後は、園児も同行してもらい面接を実施しています。子どもの健康状態、発達状態、家族関係、家族構成などについて、担任と副園長、担任と主任などがチームを組んで面接しています。面接の結果は市にフィードバックします。アレルギーのある子どもの場合は、園長、看護師、栄養士のチームで面接にあたります。</p>
Ⅲ－４ サービス実施計画の策定			
Ⅲ－４－（１） 利用者のアセスメントが行われている。			
Ⅲ－４－（１）－① 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	44	a	<p>利用者一人ひとりのニーズや課題は、月間指導計画の中に個別に明示しています。未満児の場合は、指導計画中の「援助・配慮」の項目に、以上児の場合は「個別配慮」の項目に、それぞれ記入しています。</p>
Ⅲ－４－（２） 個別支援計画の策定			
Ⅲ－４－（２）－① 一人一人のニーズを把握して個別の支援計画を策定している。	45	a	<p>月間指導計画の策定にあたっては、「連絡ノート」からも利用者の意向を把握し反映しています。年間・月間・週案の指導計画の策定の責任者はクラス担当ですが、主任も入って指導します。週案は役割分担して立案しています。立案にあたっては、常に、前週、前月、前年の振り返りをして改善点を話し合い、次週、次月に反映させています。でき上がった指導案は、事務所主任、副園長、園長の順にチェックして担任に戻します。７月には、職員会議として「月案勉強会」を開き、月案の「評価・反省」項目の記録をもとに、評価・見直しをしています。</p>
Ⅲ－４－（２）－② 個別支援計画の内容が常に適切であるかの評価・見直しを実施している。	46	a	<p>個別指導計画の内容が適切であるかどうかの評価・見直しは、年齢別のクラス会議や以上児会議などで、次週、次月の計画策定時に同時に行っています。表現などはわかりやすいかどうか、気になる点は何か、などを話し合い、結果は職員会議に持ち寄って報告・検討することで全職員に周知を図っています。</p>
Ⅲ－４－（３） 情報の管理			
Ⅲ－４－（３）－① 個人情報保護に関する規程を公表している。	47	b	<p>個人情報保護に関する規程は「入園のしおり」に掲載していますが、園内での掲示がないので早期に整備するよう望みます。</p>

項目別評価結果・評価コメント

事業者名 浦安市立東野保育園

評価基準	項目番号	評点	コメント
IV 保育所			
IV-1 子どもの発達援助			
IV-1-(1) 発達援助の基本			
IV-1-(1)-① 保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	1	a	<p>保育計画は浦安市の定める基本理念に基づいた園独自の園目標があり、園目標に沿って年齢ごとに保育目標が定められ、地域の実態などを考慮して作成しています。保育計画は職員参加のもとに1年かけ、練り上げて作成しています。</p> <p>3歳未満児は安心・信頼できる人とのかかわりを大切に、3歳以上児は培われたものが生かせるよう、友だち同士のかかわり、思いやりの気持ちや動植物へのかかわりなども視野に入れた保育計画となっています。</p>
IV-1-(1)-② 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	2	a	<p>指導計画は、クラスの担任間で毎月評価・反省のもとに次月の計画を作成し、事務所主任・副園長・園長が助言をしています。年間指導計画は期ごとに評価・反省をしています。指導計画の作成については勉強会を行っています。</p>
IV-1-(2) 健康管理・食事			
IV-1-(2)-① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	3	a	<p>健康管理に関するマニュアルがあり、看護師を中心に保育士と連携を取りながら、子ども一人ひとりの健康管理を行っています。子どもの怪我については、特に細かく保護者に伝えるよう努めています。</p>
IV-1-(2)-② 健康診断（内科、歯科）の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	4	a	<p>健康診断は年2回（6か月未満は2週間ごと）行っています。健康状態に変化や虫歯があるときは、看護師から個別に文書や口頭で伝えています。</p> <p>嘱託医とは連携が取れており、発達状況などについて相談をしています。</p>
IV-1-(2)-③ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している。	5	a	<p>看護師は感染症の最新情報の把握に努め、職員会議で感染症防止策を伝えています。必要に応じて時間外サポーターを含め、職員に感染症マニュアルを配布をし、感染症に関する周知に努めています。</p> <p>感染症発生時は玄関ロビーの掲示板に速やかに掲示したり、クラス内でも伝えたりしています。</p>
IV-1-(2)-④ 食事を楽しむことができる工夫をしている。	6	a	<p>園では、会食会、出前おにぎり作り、お弁当給食、クッキング保育など食事を楽しむためのさまざまな工夫をしています。給食員は子どもとなるべく触れ合いを多くもつよう努めています。栄養士は5歳児に食育の絵本の読み聞かせをしています。</p> <p>給食の量は子ども一人ひとりの状況で加減したり、年長児は自分で量を決めるようにしています。</p>
IV-1-(2)-⑤ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	7	a	<p>喫食状況は、栄養士が保育士に直接聞いたり、残食調査で把握をして、調理の工夫に生かすよう努めています。給食員もときどき保育室に行き、子どもの食事のようすを見えています。</p>
IV-1-(2)-⑥ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	8	a	<p>レシピは、自由に持ち帰ることができ、保護者から希望があれば追加配布しています。試食は、保育参観・保育参加時に行われ、多くの保護者が試食をしています。</p> <p>離乳食から幼児食への移行にあたっては、保護者と常に連絡を取っています。幼児食への移行の前に完了食も取り入れています。</p>
IV-1-(2)-⑦ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	9	a	<p>除去食・代替食の提供にあたっては、医師の指示書のもとに面接を行っています。アレルギー食の提供にあたっては、たんばく質の代替は必ずたんばく質で代替することを基本としています。誤食を防ぐためにチェックを重ねて行っています。</p>

評価基準		評点	コメント
IV-1-(3) 保育環境			
IV-1-(3)-① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	10	a	温度、湿度、採光、換気などに配慮しています。清掃は1日1回行われるほか、食後にも清掃をしています。施設設備や遊具の点検は定期的に行っています。
IV-1-(3)-② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	11	a	各保育室は、限られた環境の中で、食事・遊び・午睡の空間を分ける工夫をしています。保育室のレイアウトは子どもの動きを妨げないよう生活動線に配慮しています。 職員会議で言葉づかいについて話し合い、保育士の声の大きさについても振り返りをしています。
IV-1-(4) 保育内容			
IV-1-(4)-① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	12	a	園では、一人ひとりの気持ちを受け止め、愛情豊かにかかわることを基本姿勢とし、子どもの話を聞くという姿勢で保育にあたっています。勉強会で言葉かけなどについて話し合い、自分の保育の振り返りをしています。調査時子どものペースを大事にしたり、子どもの話をじっくりと聞く場面が見られました。
IV-1-(4)-② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	13	a	基本的な生活習慣は自分でしようとする子どもの気持ちを大切に、5歳児までに自分のことは自分でできるように、個々の子どもの状況に合わせて進めています。
IV-1-(4)-③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	14	a	数年前から環境づくりについて、定期的に話し合い、一人ひとりが満足できる遊びや玩具の配置、片付けに関して検討を進めています。 各保育室は、コーナー分けをしており、年齢に応じた遊具が用意され、片付けやすいよう工夫しています。園では、今後園庭の環境づくりについても、さらなる取組を進めていく予定です。
IV-1-(4)-④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている。	15	a	季節を感じられる公園に行き、自然物を拾ったり、季節の花を見たりしています。園では、金魚、ザリガニやカブトムシなどを飼育したり、野菜の栽培をしたりしています。 交通公園に行き動物に触れたり、児童センターで遊んだりしています。5歳児は大きいこいのぼりを作って境川に飾りに行きました。
IV-1-(4)-⑤ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	16	a	週に1回、3、4、5歳児を中心に異年齢交流の日を設けています。グループを作り、散歩や園庭遊び、食事をいっしょにしています。また、3、4、5歳児が1、2歳児の午睡や着替えを手伝ったりしています。 けんかの対応は年齢に応じて、子ども同士で解決するよう見守ったり、子どもの気持ちを十分に受け止めて、代弁したりしています。
IV-1-(4)-⑥ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	17	a	園目標の中に、自分の気持ちを素直に表現できることを掲げ、自分の思いを相手に伝え、相手の思いや発言を受け入れられるよう配慮しています。 文化の違いについて身近に感じることはなく、特に具体的な取組はしていませんが、保護者に対しては個別に話をしたり、配布物はひらがなで書いたりするなどの配慮をしています。
IV-1-(4)-⑦ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	18	a	園では、行事の役割や遊びで男女の区別はしていません。保護者がふさわしくない発言をした場合には気づいてもらえるような言葉かけをしています。
IV-1-(4)-⑧ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	19	a	乳児保育は、その年齢に合わせた生活の流れを大切に、子ども一人ひとりの生活リズムに合わせ、子どもの要求をくみ取るよう努めています。保育室は、高月齢と低月齢で空間を分け、食事・午睡の空間分けもしています。 看護師が独自に作成した「かかりやすい病気」に関する文書が、0歳児保育室の前室に置いてあり、保護者は自由に持ち帰ることができます。

評価基準		評点	コメント
IV-1-(4)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	20	a	子どもの状況についての職員間の引き継ぎは、文書と口頭で伝達を行っています。時間帯によって、保育室を移動するので子どもが不安にならないよう配慮をしています。延長保育の時間帯は、安全対策のために遅番の職員が窓口に立っています。
IV-1-(4)-⑩ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	21	a	担任が障害児保育の研修に計画的に参加したり、年1、2回の統合保育会議に参加をし、職員会議で報告をしています。必要に応じて、こども発達センター、まなびサポートなどに相談したり、助言を求めたりしています。
IV-2 子育て支援			
IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援			
IV-2-(1)-① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	22	a	日常的な情報交換は「連絡ノート」で行い、登・降園時に会った時は声をかけるように努めています。個別面談は、保育参観・保育参加時に年2回行っていますが、必要に応じて随時行っています。
IV-2-(1)-② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	23	a	家庭の状況や保護者との情報交換の内容は、必要に応じて発達記録に記録しています。また、アレルギー児や離乳食の面談については決まった様式に記録しています。
IV-2-(1)-③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	24	a	クラス懇談会は年2回行っています。懇談会では、かみつきなど年齢によって保育園で気をつけていることを伝えたり、保護者同士の交流を図ったりしています。保育参観・保育参加は、参加しやすいよう1か月間程度の期間を設けて年2回行っています。
IV-2-(1)-④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている。	25	a	着替えのときなど、日々子どもの様子に変化がないか気を配っています。虐待を疑われる場合には速やかに園長まで報告する体制があります。
IV-2-(1)-⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	26	a	虐待が疑われる場合の対応について体制が整っており、こども家庭支援センターと情報交換をしたり、連携を図ったりする体制になっています。
IV-2-(2) 一時保育			
IV-2-(2)-① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	27	a	一時保育のための保育室があり、専属の担当者がいます。一時保育室は、食事・遊び・午睡の空間分けをしています。乳児・幼児にふさわしい遊具を用意しています。一時保育の子どもと通常保育の子どもはお互いに行き来をしやすいように遊んでいます。一時保育の実施にあたっては不安を取り除いて、心地よくまた楽しく生活できるよう配慮しています。保護者には口頭で子どものようすを伝えていきます。